

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年 10月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493500064		
法人名	株式会社 楽生舎		
事業所名	グループホーム つつじの家		
所在地	広島県山県郡北広島町壬生915-1 (電話) 0826-72-7575		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3493500064-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年10月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人を中心としグループホーム以外にも様々な医療・介護系サービスを兼ね備えている。その為入居者がどのような状況になっても迅速かつ適切なサービスを提供出来たり、家族や入居者の方の選択肢の幅が広がる。

近所には商店や学校があり地域との関わりも持ちやすい環境となっており、地域行事へも気軽に参加する事が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

商店や小学校、保育園とも徒歩圏内で入居者とも交流の機会があり、中学校の課外授業や専門学校の実習を通じた配膳・下膳の有償ボランティア活動など地域に開かれた運営をしている。行政とも認知症サポートキャラバンの講師派遣や施設前の道路標識「病院近く歩行者注意・車いすマーク」の設置など協力関係ができています。建物側道沿いの美化運動として花壇にコスモスを植えるなど地域活動も行っている。多くの入居者が農作業の経験があり、庭の畑で入居者が白菜、ブロッコリー、ニラ、小松菜などを育てており、生活の継続性と外出の機会を作っている。収穫し、漬物にしたりおかずに加えたりして楽しんでもらっている。入居者の個別の嗜好や特性を細かく把握して、介護計画に反映させている。

自己評価	外部評価	項 目（1ユニット）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっている。	・毎朝朝礼で基本理念と接客用語の唱和を行っている。 ・目標を確認しケアの統一に努めている。	基本理念、施設訓、目標を1階詰所上に掲げるとともに、毎朝の朝礼で唱和を行っている。尊厳、プライバシー、生活の継続、よりよいサービス、地域に開かれた取組などが具体的なケアの内容が運営に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・地域行事に出来る限り参加し、地域の方につつじの家を知ってもらえる様に努めている。 ※コロナウィルス感染予防の為今年度は実施が難しい。	まつりや、とんど、みぶの花田植えなどの行事に入居者も参加、見学を行っている。地域の中学生の課外授業や専門学校の実習受け入れを通じたボランティア20～30名の受け入れも行っている。入所者が商店にお酒や衣類を買いに出かけたり、建物の側道花壇整備などの美化運動にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・相談や問い合わせには随時対応している。 ・町が主催する認知症サポートキャラバンに講師として参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・定期的に運営推進会議を開催し、ホームの現状を報告、意見交換を行っている。 ・意見に対しスタッフと改善策を話し合い業務改善を行っている。	2か月ごとに開催し、民生委員、保健課、地域包括、家族や家族代表が参加している。入居者の状況や行事、活動報告、苦情、身体拘束に関わる事項、職員の研修状況や行事予定が話し合われている。要介護5の方、音楽好きな方の対応の改善に繋がった事例もある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	・運営推進会議の場のみの情報交換になりつつある。地域ケア会議等への参加も積極的に行っていきたい。	認知症サポートキャラバンへの講師派遣や、行政が開催する身体拘束適正化、虐待防止、看取りに関わる研修に毎回職員が参加し伝達講習を行うなどサービスの質の向上に向けて連携している。年2～3回開催される地域ケア会議には、毎回参加し連携を図っているが、本年度はコロナ対応で中断している。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束マニュアルをスタッフ全員が閲覧している。 ・身体拘束についての勉強会も実施している。	グループ法人の医療安全委員会を中心として、方針書やマニュアルが整備され、途中採用者も踏まえて年に2～3回開催している。現状では身体拘束を要する方はなく、夜間床センサーにて転倒防止見守りを行っている方が1名いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・事業所内外部の勉強会に参加している。 ・参加出来ない職員に対し伝達講習を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・勉強会により制度についての学ぶ機会を設けている。 ・実際に対象がいらない為制度を完全に理解する事は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約書等の説明には専門用語を使用せず出来るだけ分かり易く説明を行っている。 ・質問に対してもしっかりと答えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・入居者の状態を表情からも把握できるようにコミュニケーションを大切にしている。 ・家族からも意見を伝えやすい雰囲気作りと面会時には家族と情報交換を行っている。	コロナ対応にて、面会を中断してきたが、予約制で時間を限定して再開を始めている。通常、年に2回家族会を開催し家族の意向や希望などを伺っているが、今年は面会時と半年に1度のカンファレンスで意見をいただいている。意見箱や面会時の意見記録用紙等の工夫をしており、嗜好や好みを反映した事例もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・全体会の開催やヒアリングの場を設け意見交換を行っている。	毎月開催する全体会を通じて法人の方針の伝達や入居者のケアの方法について検討している。パットや書類の置き場所、非接触型体温計などの備品の購入、休日や勤務時間などの希望など、スタッフの提案を事業運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・グループ内での業務改善発表会等を開催し、部署・個人の意識向上に努めている。 ・託児所や独身寮もあり働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・グループ内研修や事業所での研修の計画をたて実施している。 ・全職員に伝達できるように後日講習の場も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	・各事業所の取り組みを発表する機会を持っている。 ・良かった点を活かしサービスの向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・本人状況や家族から聞き取りをしつかりと行いアセスメントを行っている。 ・スタッフにも情報を書面や口頭で伝えている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・面会や連絡あった際にはスタッフから積極的に声をかけ、入居者・家族双方が不安なく生活出来る様に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居者、家族の要望に応じて、多職種とも連携を図りより良い生活を送れるように支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・畑作業や草取り等の外作業の際には入居者の方を中心に実施している。 ・入居者の方からの助言を受け畑作業も行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・入居者の近況を伝えつつ本人の趣味活動や日々の生活を本人のペースで送れるように努めている。 ・ケアカンファレンスにも家族に参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・本人、家族との話から馴染みの場所や物を把握しドライブ等で昔の里を巡ったりしている。	入居者4～5名ずつ、年3～4回の頻度で里帰りツアーを行っている。家屋がある方やない方もおられるが、懐かしみ会話が増えている。友人や近所の方の訪問がある方が数人、電話をかけられる人が2～3名、手紙を書かせる方が2名おり、継続できるよう支援をしている。家族の来所を希望する場合は、連絡調整をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・入居者同士の会話や作業を一緒に行える環境作りを行っている。 ・相性に応じて席の位置や職員の配置等に気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・退居後も入居者や家族が困ったり不安にならない様に退居後の助言や相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント。					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人や家族から生活背景を聞き取り、出来る限り本人本位で生活出来る様に努めている。 ・意思疎通が難しい場合には普段の状況を把握し、不快な気分にならないよう支援している。	入居者から意向を充分確認できない場合は、家族に電話をして、改めて好きなことや得意なこと、よくおこなっていたことなどを聞いてケアに反映している。ブラックコーヒー、濃いめのお茶、クラシック音楽を流したり、菊の生育、畑仕事など一人ひとりの生活歴や意向を確認したサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・本人との会話や家族からの聞き取り、または関係機関より入居者の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日々のコミュニケーションから本人の状態を把握し、自分の力を出来る限り活用し生活できるようにケアを行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	それぞれの担当職員と計画作成担当者が一緒に情報収集を行い、課題やケアの方針を決め計画作成に活かしている。	毎月モニタリングを担当スタッフと計画作成担当者が行い、変化や気になる点を記録し、必要があれば介護計画の見直しを行い、半年に1回のケアカンファレンスで介護計画の原案を作成している。ケアカンファレンスは本人と家族の参加のもとで開催し、意見を確したうえで介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	- 申し送りや記録用紙に日々の状態を記入している。 - 毎月計画についての評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	他職種や他の関係機関と連携し助言や指導を受け偏りの有るケアにならないようしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	- 役場や同職種だけではなく、消防や警察の方に講習をや演習をお願いし情報の共有を図っている。 - 状態に応じて他のサービスなどの説明も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の診断の他症状に応じて他科受診の対応も行っている。	北広島病院で対応するが、本人家族の希望する病院からの往診や眼科、皮膚科、泌尿科など家族による受診もできる。家族による受診ができない場合は、職員による受診支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・契約を結んだ医療機関の看護師の訪問により入居者の健康管理を行っている。 ・緊急時や日祝日も24時間連絡できる体制も整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院先への情報交換や、地域医療連携室と日頃から連絡を取っている。 ・入院の際には家族や本人が不安にならないよう今後の事も各相談員と連絡を取り話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・入居者の重度化に応じて家族や関係機関で話を行い、出来る限り支えているように援助している。 ・看護師とも連携を図り必要に応じた同意書をとれるようにしている。	入居の際に、重度化に対する方針を説明し同意を得ている。看取りとなる前に医療を求める入居者家族が多く、グループホームでの看取り経験はない。吸引や注入ができないため、病院搬送となる方が年に1～2名おられるが、医療を要せず入居者家族が望まれる場合は、看取りを行える教育、体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・急変、事故に対するマニュアルを作成し職員全員が確認している。 ・連絡手順や対応方法の手引きを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・夜間想定の方針訓練と水害等の自然災害に対する避難訓練も行っている。 ・消火器や通報装置の使用方も消防に依頼し訓練を受けている。	夜間想定を含む火災訓練を年に2回、水害等の自然災害を想定した避難訓練を年1回開催している。水害については消防署から垂直避難の助言がある。グループ内の法人には3日以上食料が備蓄されている。火災訓練では、隣接老人保健施設や病院とともに、地域の住民が10数名参加し消防署と一緒にいる。	

自己評価	外部評価	項 目（ 1ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・個人情報の取り扱いについて勉強会を開催している。 ・入居者の尊厳の保持を施設訓でも唱和し常に意識し業務にあたっている。	個人情報の取扱方針が整備され、入居時に写真を含めた扱いについて説明同意を得ている。開示方法など、研修や全体会を通じて確認されている。トイレや風呂の際は、扉やカーテン、声掛け、申し送り時の個人名の表現方法等を含めて羞恥心やプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・自己決定を尊重できる様、普段のコミュニケーションから入居者の表情にも気を配り思いや希望をくみとれるように気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・食事や排泄等出来る限り本人のペースで実施できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・季節に応じた衣類を家族に準備してもらっている。 ・地域の理容院に整髪に来てもらっている。 ・家族に協力を依頼し行きつけの美容院への外出も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	・入居者の方に盛り付けを依頼したり、後片付けを一緒に行っている。 ・季節に合わせたおやつやお寿司等を一緒に作っている。	隣接の老人保健施設の厨房にておかずを作っているが、ご飯はグループホーム内で炊き、炊飯の匂いや盛付けを行うなど家庭的な配慮をしている。月に1回程度のおやつ作りや年に3回程度のお寿司づくり、畑の野菜と漬物を一緒に作っている。野菜を調理し添えたり、盛付け、配膳、下膳など担ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	- それぞれの摂取量に応じた食事を提供している。 - お茶が苦手な方にはホットミルクや紅茶を提供し無理なく水分摂取できるように努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	- 食後は必ずうがいや歯ブラシを行っている。 - 義歯や自歯の不具合等はすぐに歯医者に連絡し調整、診察を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	- 極力トイレでの排泄を促している。 - トイレの時間を決めず声掛けにて誘導している。	水分と食事の量や、排せつの記録を振り返りながらスタッフで協議をし、一人ひとりの排泄の支援を行っている。現在、常時おむつは1名、夜間おむつ日中パットは1名、16名はパットで過ごされており衣服が濡れる失敗はまれという状況である。夜間ポータブルは1名で、トイレは外からの見守りの支援で足りている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	- 適度に水分補給を行っている。 - 毎日ラジオ体操やリハビリ体操を行い軽い運動が出来る場をつくっている。 - 看護師や医師と協力し必要に応じた排便コントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	- 週2回と入浴日は決まっているが、希望に応じて入浴を行っている。 - 皮膚のただれや清潔の保持為定期以外の入浴も行っている。	脱衣室前には、別府の湯、道後の湯の暖簾を架け入浴気分を増す取組をしている。日中、13時半から15時半の間、週2回を目途に入浴しているが、希望や清潔の保持のための入浴も行っている。入浴剤を入れたり、家族が持ってきた柚子でゆず湯にするなど楽しんでもらう工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	・起床や入眠は可能な限り本人のペースで行っている。 ・入眠出来ない方には眠剤を使用している現状もあり、日中の活動や体内時計を正常に戻せるような援助の必要性もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている。	・内服の指示書を確認し、看護師や医師から内服についての助言も受けている。 ・誤薬の無いように内服チェックの強化を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている。	・安全面に考慮し本人の意向に沿った畑作業や草取りなどの外作業も行っている。 ・レク内容も同じものばかりにならない様に歌や手作業、雑談等毎日工夫して実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。	・近くの商店へ自ら買い物に行ったり、適宜ドライブ等を計画し実施している。 ・家族へ協力を依頼し自宅への外出や外泊も行っている。	日常的には、中庭の畑で野菜を作 ったり、草引きや水やり等の世話 をしている。歩いて行ける商店が 3つ、隣接特別養護老人ホームの 前には鶏小屋や鯉のいる池、ベン チもあり、買い物や散歩に出かけ る入居者もいる。昔から行ってい いた美容院へ家族と行かれる方、 花見や花田植え、紅葉狩り等の取 り組みがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる。	・本人と家族と相談し自己管理出来る方は自己管理を行っている。 ・自己管理が難しくても必要な買い物等を行えるよう預り金制度を実施、必要な時に買い物出来る様に工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目 (1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・電話で家族や知人との話が出来る様に要望に応じている。 ・手紙等の受理も行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・空調設備やカーテン等で温度調整を行っている。 ・庭や施設内に季節の花を飾り、季節を感じれるように工夫している。	居間は採光が充分で、窓から田や畑が見え、季節の移ろいや作業風景が見える。彼岸花やコスモスなど秋を感じさせる生け花、廊下の壁面には四季を感じさせる植物や生き物のちぎり絵が貼っている。居室前の表札には、全国の名所の名前が掛けてあり、観光地を想像させる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・集団活動を無理に促さず、一人の時間も持てるよう環境に工夫をしている。 ・一人一人のペースで過ごせる雰囲気作りが出来る様日々努力している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・備え付けの家具以外は写真や花を飾って貰ったりと本人の安心できる空間作りを行っている。	居室の備付は、チェスト、カーテン、エアコンとベッドである。持込は、テレビ、裁縫道具、仏具、写真、三段ボックス、衣類、寝具など使い慣れたものである。ベッドの向きやレイアウトは希望により変更でき、花や植物を持ち込まれる入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・障害物となる者が無いように日々環境整備を行っている。 ・本人の動線を把握し必要物品を取りやすい位置に置く等の工夫も行っている。		

V アウトカム項目（1ユニット）← 左記（ ）内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 2ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に なげている。	・毎朝朝礼で基本理念と接客用語の唱和を行っている ・目標を確認しケアの統一に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の 一員として日常的に交流している。	・地域行事に出来る限り参加し、地域の方につつじの家を知ってもらえる様に努めている ※コロナウィルス感染予防の為今年度は実施が難しい		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている。	・相談や問い合わせには随時対応している ・町が主催する認知症サポートキャラバンに講師として参加している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・定期的に運営推進会議を開催し、ホームの現状を報告、意見交換を行っている ・意見に対しスタッフと改善策を話し合い業務改善を行っている		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極 的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	・運営推進会議の場のみの情報交換になりつつある。地域ケア会議等への参加も積極 的に行っていきたい		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束マニュアルをスタッフ全員が閲覧している ・身体拘束についての勉強会も実施している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・事業所内外部の勉強会に参加している ・参加出来ない職員に対し伝達講習を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・勉強会により制度についての学ぶ機会を設けている ・実際に対象がいらない為制度を完全に理解する事は出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約書等の説明には専門用語を使用せず出来るだけ分かり易く説明を行っている ・質問に対してもしっかりと答えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・入居者の状態を表情からも把握できるようにコミュニケーションを大切にしている ・家族からも意見を伝えやすい雰囲気作りと面会時には家族と情報交換を行っている		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・全体会の開催やヒアリングの場を設け意見交換を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・グループ内での業務改善発表会等を開催し、部署・個人の意識向上に努めている ・託児所や独身寮もあり働きやすい環境を整えている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・グループ内研修や事業所での研修の計画をたて実施している ・全職員に伝達できるように後日講習の場も設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	・各事業所の取り組みを発表する機会を持っている ・良かった点を活かしサービスの向上に努めている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・本人状況や家族から聞き取りをししっかりと行いアセスメントを行っている ・スタッフにも情報を書面や口頭で伝えている		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・面会や連絡あった際にはスタッフから積極的に声をかけ、入居者・家族双方が不安なく生活出来る様に支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居者、家族の要望に応じて、多職種とも連携を図りより良い生活を送れるように支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・畑作業や草取り等の外作業の際には入居者の方を中心に実施している ・入居者の方からの助言を受け畑作業も行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・入居者の近況を伝えつつ本人の趣味活動や日々の生活を本人のペースで送れるように努めている ・ケアカンファレンスにも家族に参加して頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・本人、家族との話から馴染みの場所や物を把握しドライブ等で昔の里を巡ったりしている		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・入居者同士の会話や作業を一緒に行える環境作りを行っている ・相性に応じて席の位置や職員の配置等に気を配っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・退居後も入居者や家族が困ったり不安にならない様に退居後の助言や相談に応じている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人や家族から生活背景を聞き取り、出来る限り本人本位で生活出来る様に努めている ・意思疎通が難しい場合には普段の状況を把握し、不快な気分にならないよう支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・本人との会話や家族からの聞き取り、または関係機関より入居者の情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日々のコミュニケーションから本人の状態を把握し、自分の力を出来る限り活用し生活できるようにケアを行っている		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・それぞれの担当職員と計画作成担当者が一緒に情報収集を行い、課題やケアの方針を決め計画作成に活かしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・申し送りや記録用紙に日々の状態を記入している ・毎月計画についての評価を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・他職種や他の関係機関と連携し助言や指導を受け偏りの有るケアにならないようしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・役場や同職種だけではなく、消防や警察の方に講習をや演習をお願いし情報の共有を図っている ・状態に応じて他のサービスなどの説明も行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・かかりつけ医の診断の他症状に応じて他科受診の対応も行っている		

自己評価	外部評価	項 目 (2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・ 契約を結んだ医療機関の看護師の訪問により入居者の健康管理を行っている ・ 緊急時や日祝日も24時間連絡できる体制も整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・ 入院先への情報交換や、地域医療連携室と日頃から連絡を取っている ・ 入院の際には家族や本人が不安にならないよう今後の事も各相談員と連絡を取り話し合っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・ 入居者の重度化に応じて家族や関係機関で話を行い、出来る限り支えていけるように援助している ・ 看護師とも連携を図り必要に応じた同意書をとれるようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・ 急変、事故に対するマニュアルを作成し職員全員が確認している ・ 連絡手順や対応方法の手引きを作成している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・ 夜間想定火災訓練と水害等の自然災害に対する避難訓練も行っている ・ 消火器や通報装置の使用方も消防に依頼し訓練を受けている		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・個人情報の取り扱いについて勉強会を開催している ・入居者の尊厳の保持を施設訓でも唱和し常に意識し業務にあたっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・自己決定を尊重できる様、普段のコミュニケーションから入居者の表情にも気を配り思いや希望をくみとれるように気を付けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・食事や排泄等出来る限り本人のペースで実施できるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・季節に応じた衣類を家族に準備してもらっている ・地域の理容院に整髪に来てもらっている ・家族に協力を依頼し行きつけの美容院への外出も行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	・入居者の方に盛り付けを依頼したり、後片付けを一緒に行っている ・季節に合わせたおやつやお寿司等を一緒に作っている		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・それぞれの摂取量に応じた食事を提供している ・お茶が苦手な方にはホットミルクや紅茶を提供し無理なく水分摂取できるように努力している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・食後は必ずうがいや歯ブラシを行っている ・義歯や自歯の不具合等はすぐに歯医者に連絡し調整、診察を受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	・極力トイレでの排泄を促している ・トイレの時間を決めず声掛けにて誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・適度に水分補給を行っている ・毎日ラジオ体操やリハビリ体操を行い軽い運動が出来る場をつくっている ・看護師や医師と協力し必要に応じた排便コントロールも行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	・週2回と入浴日は決まっているが、希望に応じて入浴を行っている ・皮膚のただれや清潔の保持為定期以外の入浴も行っている		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	・起床や入眠は可能な限り本人のペースで行っている ・入眠出来ない方には眠剤を使用している現状もあり、日中の活動や体内時計を正常に戻せるような援助の必要性もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている。	・内服の指示書を確認し、看護師や医師から内服についての助言も受けている ・誤薬の無いように内服チェックの強化を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。	・安全面に考慮し本人の意向に沿った作業や草取りなどの外作業も行っている ・レク内容も同じものばかりにならない様に歌や手作業、雑談等毎日工夫して実施している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。	・近くの商店へ自ら買い物に行ったり、適宜ドライブ等を計画し実施している ・家族へ協力を依頼し自宅への外出や外泊も行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる。	・本人と家族と相談し自己管理出来る方は自己管理を行っている ・自己管理が難しくても必要な買い物等を行えるよう預り金制度を実施、必要な時に買い物出来る様に工夫している		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・電話で家族や知人との話ができる様に要望に応じている ・手紙等の受理も行っている		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・空調設備やカーテン等で温度調整を行っている ・庭や施設内に季節の花を飾り、季節を感じれるように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・集団活動を無理に促さず、一人の時間も持てるよう環境に工夫をしている ・一人一人のペースで過ごせる雰囲気作りができる様日々努力している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・備え付けの家具以外は写真や花を飾って貰ったりと本人の安心できる空間作りを行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・障害物となる者が無いうに日々環境整備を行っている ・本人の動線を把握し必要物品を取りやすい位置に置く等の工夫も行っている		

V アウトカム項目（ 2ユニット ） ← 左記（ ）内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームつつじの家

作成日 令和2年11月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	認知症に対する知識や会議技術、対応方法のスキルの向上	職員一人一人が認知症に対する知識や対応技術の向上	・積極的に研修に参加し、質問や疑問をそのままにしない ・解らない事を分からなままにしない	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。